

中三国語科通信

第2号
令和元年7月31日
国語科3年担当
奥池・高嶋・篠田



抜け殻がこの木の枝にもついている
声のシャワーのかしましき朝

『竹取物語』始めました。

三年生の新しい取り組みとして、漢文の素読と『竹取物語』の探究を始めました。すでに書いてもらった一学期の授業アンケートでは、おもしろかったものとして『竹取物語』がかなり上位にあがっていました。漢文の素読や返り点のルール、古典文法等々、急にレベルアップした授業にも熱心に取り組んでくれているように思います。第一号で紹介した自分探究ノート「私と〇〇」も順調！……ということですが、今回も、力作ぞろいの「私と〇〇」を紹介したいと思います。（今回は、クラスも無視、コースも無視、掲載数も無視、とにかく載せたいと思ったものを片端から載せていきます！）

私と時間 嵐 彩葉

いつの間にか時間がたってしまうことがよくある。そんな時、私は決まって後悔する。時間は、何よりも貴重だ。唯一と言っていいほど人間に平等に与えられた時間。毎日限られた二十四時間の中で、私は一体何がしたいのだろう。時間がたつて後の祭りではもう遅い。時間はお金で買えないのだから。

私と時間

鎌田拓郎

人間には八十年ほど時間がある。そして私は今までの経験から三年ほどやり続けられれば特技と言えるところにいる。だから一生でどれだけの特技を作れるか考えてみた。十歳くらいまではできなくて、六十を過ぎても無理とすれば、十六個は作れると分かった。そう思うと人間にはたくさん時間があるんだなと思った。

私と宮崎

鎌田拓郎

私は宮崎生まれで宮崎育ちの宮崎人だ。しかし私は宮崎の方言を日常であまり使わない。「てげ」や「よたきい」など知ってはいるが使わない。私はこのままでは宮崎県民と胸を張って言えない。なのでこれからはできるだけ宮崎の方言をたくさん使うようにして、いつか必ず無意識のうちに使えるようになりたい。

私と欲望

藤田姫乃

私が今一番欲しいものは女子力だ。ファッションや雑誌に全く興味がないため友達の話についていけない。服を選ぶ時は興味がなく試着が嫌いなため母に選んでもらう。また、髪型も男子と間違われるくらい短くしないと気がすまない。大人になるまでには自分で好きな服を選び、着こなせるようにしたい。

私と学校

中條瑛人

私はたつききゅうりが大好きだ。しかし、ほとんどの小学校の給食にはたつききゅうりが含まれない。私はそれを聞いて驚いたと同時にたつききゅうりが無い小学校の児童はかわいそうだと思った。味気ないきゅうりを使った料理の中でいちばんおいしかったたつききゅうり。今はたつききゅうりがあった私の小学校をとっても誇りに思っている。

私と情熱

中條瑛人

私は今、バレーに情熱を捧げている。バレーをするなかで一番嬉しい瞬間は和生がガッツポーズをした瞬間だ。日ごろ、点が決まっても喜ばない和生がガッツポーズをする時、チームの士気が高まる。実際、私も彼が喜んだらスパイクを決めた後より興奮する。プレーでも士気を高めるエース。中体連でも点をたくさん決めてほしい。

裏にもあります！

コラムマラソン 第二回

『全力少年』ですか？

日高由里子

息子が小学校に上がり、毎日宿題の丸付けをしています。先日、算数の文章題の答えに単位がついていないことを指摘し、軽い気持ちで「まだまだだねえ」と言ったら、息子がうわーんと泣き出しました。

息子の話はこうでした。僕は精一杯がんばってるけど、どうしても間違えることがある。だから、どんなにがんばってもなりたくない自分になれるんじゃないかって、不安になる。「まだまだ」って言われたら悲しいし、悔しい。……なるほど。

皆さんも「この努力は報われるのだろうか」と不安になることがあるのでは？

私にはあります。結果を出すための最短距離を求めてはいけないというのも本ただけど、やったことを無駄だったな、と思うのは切なすぎる。

そんなとき思い出すのは高校時代の恩師の言葉です。「身の丈いっばいがんばれ。そうすれば、その身の丈が必ず伸びるから。」悩める小一と中三に、この言葉を贈ります。

夏休みに入ります。心身ともに大きくなって、元気な顔で学校に戻ってきてくださいね。

私と学校 丸田綾音

私はずっと学校は怖い所だと思っていた。人との関わりが苦手だったので、何かを間違えて答えて皆から注目されるのが嫌だったからだ。なので、私はとても完壁主義だった。でもこの学校に入ってから、イメージが変わった。友達が少しずつできてから、そんなに緊張しなくて良いと知ったからだ。私はこの学校生活が大好きだ。

私と家族 丸田綾音

私にはよく気の合う妹がいる。つい最近までは毎日けんかをしていたくらい仲は悪かったが私も妹も中学生になって成長したのだと感ずることが多くなった。物事を客観的に見ることでできるようになって、両親と対立することもあまりなくなった。中学生になってからとても周りの世界が変わって見えて毎日凄々と思っている。

私と情熱 日高莉子

今私は部活に情熱を注いでいる。なぜならもうすぐ最後の中体連だ

私と友達 西田和生

一人じゃ生きていけないのが人というものだ。自分と違う顔、性格、声といったようなものと触れて自分を再認識する。私の友達はみな優しく、この私に合わせるようにしてくれている。定義さえも定かでない、信頼していい明確な理由なんてどこにもない。でもなぜだろう。友達といると、どんな事でもできそうな気になってく

私と欲望 西田和生

人間は欲にまみれている。というより全ての生物に欲があるからこの世は成り立っている。欲にまみれた人といういいイメージは抱かないだろう。ただそういう人は自分を大切にできるとも思う。いくら人を尊重しても結局自分の人生の主役は自分だ。欲望をおさえこんで自分を失ったら、ただ一度の人生を棒に振るだろう。

からだ。最後の中体連で初戦突破したい。だから今の部活の練習を大切に、練習してきたことを生かして頑張ろうと思う。

西田和生の世界

1年生の時からずっと、豊かな発想力と表現力で西田君の文章を4回編入しました。「私と○○」を4編紹介します。

私と大人 西田和生

怒鳴られたり、叱られたり、褒められたり、慰められたりして私は育てられた。「この世」という真新しい環境に解き放たれて間もない私に寄り添ってくれた。生意気な事を言っても、言う事を聞かなくても私を宝物のように見守ってくれた。そんな大人がいたから私は今、ここにいます。そして私も

私と携帯電話 西田和生

私と携帯電話は無縁だ。だからといって、見た目やうわざだけで物を判断するのはよくない。なのでまず自己紹介から始めよう。どうやら彼らは様々なアプリを使用でき、たくさんの人とつながる機会があるらしい。一方中毒性があり、個人情報流出に関して不安も残る。その上で今の自分は彼とどうまくやっていけそうにない。

私はバド部の人達とバドができる本当に良かった。だから、笑顔で終われるように頑張る事が私の目標でもある。

私と欲望 富永美羽

私の人生において、欲望はかなり強敵だ。勉強という名の将来の為には欠かせないことを目の前にして、ゲーム、テレビ、そして私の一番大好きなベッドなどの甘い誘惑に勝つことはとても難しいことである。今だけを楽しむなら欲望などという言葉は敵と捉える必要はないが、未来を見ないわけにはいかない。

私と家族 吉留航星

家族は大切な存在だ。理由は簡単で、まだ私は自立できないからだ。最近よく耳にする「親はうざい」というせりふ。私も思ったことは少なからずある。しかし、客観的に見ると自分にまだまだ未熟な部分があったのだと思える。家族は、私を自立させるために何かを言ってくれているのだと思うと、もっと感謝しなければならぬ。

できるだけ多くの作品を載せたくて、見づらい構成になってしまいましたがご了承ください。